



環境かわら版

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>

令和2年2月号（第285号）



あいち・なごや生物多様性 EXPO を開催しました (P2)



「あいち環境塾」オープン講座の参加者を募集します (P5)



あいち低炭素社会づくりフォーラムを開催しました (P8)
（「自動車エコ事業所」等認定事業者の皆さん）



エコアクションを
はじめよう！つづけよう！つなげよう！

<http://aichi-eco.com>





あいち・なごや生物多様性 EXPO を開催しました



COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）で採択された生物多様性の世界目標「愛知目標」の目標年である2020年を迎え、愛知県では1年を通じて「つながる ひろがる 生物多様性の輪」をキャッチフレーズに、啓発イベントや連携事業により、生物多様性保全の気運の盛り上げを図っています。

1月11日（土）、12日（日）には、国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）、環境省、名古屋市との共催により、名古屋国際会議場において「あいち・なごや生物多様性 EXPO」を開催しました。このイベントは、シンポジウムや分科会、ブース展示などを通じて、COP10以降、多様な主体が取り組んできた成果を共有・発信するもので、全国で展開される生物多様性「せいかりレー」のキックオフイベントとして全国に先駆けて実施したものです。八木環境大臣政務官、大村知事ほかからの挨拶で始まり、2日間を通じて約7,300名もの多くの方にご来場いただきました。

1 シンポジウム

さかなクン（生物多様性リーダー・地球いきもの応援団）の基調講演の後、愛知商業高校ユネスコクラブ、命をつなぐ PROJECT、ソニーの森、なごや生物多様性保全活動協議会の取組紹介と、CEPA ジャパンの川廷昌弘代表のコーディネートによるパネルディスカッションを行いました。また、UNDB-J 認定連携事業の表彰式があり、県内からは、命をつなぐ PROJECT、日本スパルティナ防除ネットワーク、環境パートナーシップ・CLUB (EPOC)、なごや生物多様性



さかなクンによる基調講演

保全活動協議会、祖父江のホテルを守る会が表彰を受けました。

2 分科会とあいち・なごや宣言

「あいち・なごやの生物多様性」「生態系の保全・再生」「生態系サービスの持続可能な利用」「多様な主体の連携」という4つのテーマについて、分科会を開催しました。それぞれ愛知教育大学の芹沢俊介名誉教授、名古屋大学の夏原由博教授、ビオトープ・ネットワーク中部の長谷川明子会長、日本福祉大学の千頭聡教授のコーディネートのもと、NPOや企業などによる取組事例の発表やパネルディスカッションを行いました。

また、「分科会まとめ」として、静岡大学の武田穰特任教授のコーディネートにより、各分科会のコーディネータと特別コメントータの名古屋大学の香坂玲教授を交えたパネルディスカッションを行いました。各分科会の報告、ディスカッションを経て、参加者の総意となる「生物多様性2020 あいち・なごや宣言」を採択しました。



「あいち・なごや宣言」のとりまとめ

生物多様性2020 あいち・なごや宣言（抜粋）

私たちは、様々な立場の人々が一堂に会したこの「あいち・なごや生物多様性 EXPO」を新たな出発点として、広い視野を持って連携の輪を広げ、「自然と共生する世界」の実現に向けて、一人ひとりが行動していくことをここに宣言します。

2020年1月12日

「あいち・なごや生物多様性 EXPO」参加者一同

3 生物多様性交流ひろば

生物多様性保全に取り組むNPO・企業・学生等のブース出展、地元食材を使ったメニュー等を提供する生物多様性フードコート、アウトドア派タレントの鉄崎幹人さんらによる生物多様性ミニ授業等のステージイベントなどを開催し、多くの方にご来場いただきました。

(1) ブース出展

森ゾーン、里ゾーン、川ゾーン、海ゾーンなどに分かれて76団体がブース出展しました。各ブースでは工夫をこらした体験プログラムなどが用意されて、来場者との交流風景が各所で見られました。

また、「あいち・なごやの自然・いきものフォトコンテスト」の写真展や愛鳥週間絵画展も行いました。あいち・なごや展示エリアでは、生態系ネットワーク協議会などの取組紹介、温暖化対策や海ゴミ対策を呼びかける展示などにより、県の環境行政についてのPRを行いました。



ブース出展の状況

(2) 生物多様性フードコート

いいともあいち運動の推進店を始めとした出店があり、ジビエや地元農産物を使った料理などを提供しました。



生物多様性フードコート

(3) ステージイベント

尾張旭和太鼓楽人・鼓竜太鼓による和太鼓演奏から始まった2日間のステージでは、県による海外学

生派遣プログラム報告会や愛知の生物多様性の動画紹介など、多彩なプログラムで会場を盛り上げました。

鉄崎幹人さんが教師役となった「生物多様性ミニ授業」では、SKE48の高柳明音さんや佐藤佳穂さん、MAG!C☆PRINCEのメンバーや客席の参加者を生徒にして、楽しく生物多様性の基本を学びました。



「鉄崎幹人の生物多様性ミニ授業」

また、ブース出展を行った団体にも順番に登壇していただき、取組発表をしていただきました。クロージングステージでは、全ての出展者が「未来へ向けた決意表明」を書いたフリップを持って登壇し、「つながる ひろがる 生物多様性の輪」のかけ声と共に、未来への想いを会場全体で共有することができました。



ブース出展者らによる決意表明

4 その他

このイベントに伴い排出されるCO₂は、中部地域で創出されたCO₂クレジットを購入することによりカーボン・オフセットしており、「CO₂ゼロ」のイベントとなっています。また、フードコートではリターナブル容器などを採用し、ブースでの啓発物品には使い捨てプラスチックを使用しないなど、環境配慮型イベントとして実施しました。

〔 自然環境課 生物多様性保全グループ
電話 052-954-6475 (ダイヤルイン) 〕



「SDGs あいちシンポジウム 2020」を開催します

～パートナーシップで築くSDGs 達成の未来～



2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを理念とした国際目標です。

愛知県は、2019年7月に内閣府から「SDGs 未来都市」に選定され、全庁を挙げて様々な取組を推進していますが、SDGs の達成には、企業、大学、行政、NPO そして県民の皆さんを含めたパートナーシップの構築が必要不可欠です。

この度、県民の皆さんに、身近な「環境」という視点からSDGs について理解を深めていただき、地域全体でSDGs の達成につなげるため、「SDGs あいちシンポジウム 2020 ～パートナーシップで築く SDGs 達成の未来～」を開催します。

シンポジウムでは、造園家・ランドスケープアーキテクトで、東京都市大学特別教授の涌井雅之さんによる基調講演、各立場でSDGs 達成に向けた活動を行っている方々によるパネルディスカッションを行います。

来場者には、記念品として、愛知県産間伐材で作成した「SDGs ピンバッジ」を差し上げます。



多くの方のご来場をおまちしています。

- 1 日時 2月27日(木) 14:00～17:30
(開場 13:30)
- 2 場所 愛知県産業労働センター(ウインクあいち)
2階 大ホール
(名古屋市中村区名駅4-4-38)
- 3 定員・参加費 800名(事前申込先着順) 無料
- 4 主催 愛知県(協力 日本経済新聞社名古屋支社)
- 5 内容

(1) 基調講演

「SDGs 達成の鍵を握る
自然共生と再生循環」
講師：涌井 雅之 氏



(2) パネルディスカッション

「パートナーシップで築く SDGs 達成の未来」

パネリスト

- (企業) リコージャパン(株)経営企画本部
コーポレートコミュニケーション部 SDGs 推進
グループ兼広報グループ 太田 康子 氏
(大学) 中部大学中部高等学術研究所/国際ESD・
SDGsセンター 准教授 古澤 礼太 氏
(行政) 環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室
室長補佐 田代 久美 氏
(NPO) 環境ボランティアサークル亀の子隊
代表 鈴木 吉春 氏
(大学生) 愛知淑徳大学交流文化学部3年
(「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」
第5期修了生) 河村 友紀 氏

ファシリテーター

- (一社)中部SDGs推進センター
代表理事 戸成 司朗 氏

コメンテーター：涌井 雅之 氏

6 申込方法

申込みサイトの申込みフォームからお申込みください。



(<https://events.nikkei.co.jp/23801/>)

又は、必要事項(代表者氏名(ふりがな)、お勤め先又は通学先、電話番号、Eメールアドレス、参加人数)を記入の上、郵送、FAX又はEメールのいずれかで2月20日(木)までにお申込みください(当日必着)。応募者多数により参加いただけない場合は、ご連絡します。

<申込み・問合せ先>

SDGs あいちシンポジウム運営事務局((株)新東通信内)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-16-29
FAX: 052-951-0672 電話: 052-971-6233
Eメール: info@sdgs-aichi.com

〔環境政策課 企画・広報グループ
電話 052-954-6210 (ダイヤルイン)〕

EV・PHV・FCV 普及加速フォーラムを開催します



愛知県では、EV・PHV・FCV 普及加速フォーラムを開催し、EV・PHV・FCV の今後の動向に関する基調講演、企業・自治体の先進的な取組に関する事例発表等を行いますので、是非ご参加ください。

1 日時 2月17日(月)

- ・フォーラム 14:30～16:45 (受付開始 14:00)
- ・展示会 13:00～17:15 (受付不要)

2 場所 今池ガスビル 9階 今池ガスホール (名古屋市中千種区今池 1-8-8)

3 内容

(1) 基調講演者

トヨタ自動車(株) ^{とよしま}豊島 ^{こうじ}浩二 氏

(2) 事例発表者

(株)e-Mobility Power、日産自動車(株)、豊田市

4 申込方法

2月7日(金)までに下記Webページの応募フォームで直接お申し込みいただくか、参加申込書をダウンロードのうえFAXにより、申し込んでください。(入場無料・申込先着順350名)。なお、申込結果については、後日通知します。

5 申込先

EV・PHV・FCV普及加速フォーラム事務局
(名古屋ショーケース(株)内)

URL: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/xevforum2020.html>

FAX: 052-881-5569

〔地球温暖化対策課 自動車環境グループ
電話 052-954-6217 (ダイヤルイン)〕



「あいち環境塾」オープン講座の参加者を募集します



愛知県では、企業・団体・行政など各分野で活躍する持続可能な地域づくりのリーダー育成を目指して、2008年度から毎年「あいち環境塾」を開講しています。

今回、当塾のエッセンスが体験できるオープン講座を開催しますので、お気軽にご参加ください。

1 日時 3月7日(土) 13:00～17:00

2 場所 名古屋商工会議所 3階第5会議室

3 定員・参加費 50名(申込先着順)・無料

4 プログラム

○ 卒塾生が語る会

「あいち環境塾」の卒塾生が、体験談や現在の活動についてお話しします。

○ 参加者によるディスカッション

環境に関するいくつかのテーマについて、参加者の皆さんが気軽に意見交換を行います。

○ 講演会

「プラスチック問題を考える」

講師: 東京大学

未来ビジョン研究センター教授

^{たかむら}高村 ゆかり 氏 (当塾講師)



○ 卒塾生による地域実践活動成果発表

5 申込方法

2月28日(金)までに、下記Webページから直接お申し込みいただくか、①氏名(ふりがな)②電話番号③住所④メールアドレス又はFAX番号を明記の上、Eメール又はFAXでお申し込みください。

6 申込先・問合せ先

(公財)名古屋産業科学研究所

URL: <http://www.nisri.jp/chc/gathering.html>

電話: 052-223-6639

FAX: 052-211-6224

Eメール: kankyojuku@nisri.jp

〔資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)〕



2019年度水質パトロール隊の受賞グループが決定しました

愛知県では県民の皆さんの水環境や生活排水対策への関心を高めるため、小中学生を中心としたグループが身近な水辺の水質や生きものを調査する「水質パトロール隊」事業を1998年度から行っています。

今年度は41グループ(478名)による活動が行われ、調査の結果をレポートとして提出していただきました。

このうち特に優れた活動を行った4グループの受賞を決定し、表彰式を12月25日に愛知県自治センターで行いました。



受賞グループの皆さん

2019年度水質パトロール隊受賞グループ

- 最優秀賞 岡崎市立矢作北^{やはぎきた}中学校科学部(学校)
 優秀賞 天白川の水を調査してみよう(家族)
 優秀賞 豊明エコキッズ(地域)
 特別賞(エコアクション賞) ふなさん(家族)

受賞者の皆さん本当におめでとうございました。どのグループも調査方法やまとめ方を工夫されており、魅力のあふれる素晴らしいレポートとなりました。

水質パトロール隊参加者の活動レポートは以下のWebページで公開しています。

(<https://www.aburagafuchi.jp/>)



水大気環境課生活環境地盤対策室 三河湾環境再生グループ
 電話 052-954-6220 (ダイヤルイン)

「災害廃棄物処理図上演習」を実施しました

大規模災害が生じた場合に発生する大量の廃棄物は、生活環境を悪化させるだけでなく、復旧・復興の大幅な遅れへとつながるおそれがあります。2016年10月に策定した「愛知県災害廃棄物処理計画」では、愛知県、市町村及び民間事業者団体等が連携・協力して、災害廃棄物の適正かつ迅速な処理を行うこととしています。

このため、県では、県(環境局、防災安全局、県民事務所等)、市町村、一部事務組合、環境省中部地方環境事務所及び民間事業者団体(愛知県衛生事業協同組合、(一社)愛知県産業廃棄物協会、(一社)愛知県環境測定分析協会、(一社)愛知県建設業協会、(一社)愛知県解体工事業連合会、(一社)日本建設業連合会中部支部)から延べ約140名の参加のもと、災害廃棄物処理図上演習を県内2地域(12月17日(三河)、20日(尾張))で実施しました。

図上演習では、仮想都市として設定した3市(沿岸部、内陸部、都市部)・1県に参加者を割り振り、直下型地震の発生後5日目から7日目までの3日間の想定で、災害廃棄物処理に係る時間経過に応じた様々な課題への対応を模擬的に実践・確認しました。参加者には、住民からの要望などに対して一定の時間内で判断を求め、災害時の切迫感を疑似体験してもらいました。

演習を通じて、業務手順や連携体制を確認することができ、災害時の対応力の向上につながるものとなりました。



図上演習の様子

資源循環推進課 一般廃棄物グループ
 電話 052-954-6234 (ダイヤルイン)

1 今後の天候の見通し

気象庁の発表によれば、昨年(2019年)は全国の平均気温が統計開始以降、過去最高を記録しました。愛知県(名古屋)でも年平均気温が17.0度を記録し、全国と同様、平均気温が最も高い年になりました(表1)。

年明け後もこうした温暖化傾向は続き、名古屋地方気象台は、2月も大きく冷え込む可能性は少なく、晴れの日が多いと予測しています。

2 愛知県における2月の気象の特徴

2月は次第に昼の時間が長くなり、1月より気温も上向くため、「光の春」と言われています。しかし、本州の南岸を低気圧が通過するようになり、まとまった雲が雪を降らせることがあるため、月別降雪量が最も多い月となっています(図1)。

3 降雪量の減少に伴う雪解け水のダム流入の減

水資源機構のホームページによると、牧尾ダムの4月頃の利水容量の大半は、木曾御嶽山周辺の雪解け水を源泉としています。

同機構が実施している牧尾ダム積雪調査によれば、1月10日に実施した積雪深は5cmで、1978年度から2018年度までの同時期平均値(56cm)の1割程度しかありません。これは地球温暖化の影響により降雪量が減少していると考えられ、結果としてダムの貯水量が減少することになります。

4 「不耕起V溝直播栽培」の活用(適応策)

降雪量の減少への対策として、稲の栽培にあたり、冬に作業を行って用水の利用が集中する時期を分散させる方法で、愛知県農業総合試験場が開発した「ふこうき ぬいみぞちくほんさいばい不耕起V溝直播栽培」があります。

これは、乾いた田に機械で種もみをまき、稲が一定の大きさに成長してから水を張る方法です(写真参照)。あらかじめ田面を均平にする作業が必要になりますが、農閑期である冬に作業を行うことで、農家の作業負担の平準化が図られ、水資源を有効活用するというメリットがあります。

現在では、県内にとどまらず、新潟県を始めとした米どころにも普及しています。

5 次世代自動車への買換え(緩和策)

気候変動により既に現れている影響への適応も必要ですが、将来の地球温暖化を防ぐためには、排出されるCO₂の量を減らしていく緩和策も重要です。

2016年度における県内の「部門別二酸化炭素排出量」では、総排出量7,661万トン-CO₂のうち、17.5%を自動車利用などの運輸部門が占めています。

EV・PHV・FCVといったエコカーを選択すれば、走行距離1km当たり84kgのCO₂削減効果、3,500円の節約が可能です(県試算)。

今月17日には「EV・PHV・FCV普及加速フォーラム」(5頁参照)が開催されますので、是非ご参加いただき、次世代自動車への買換えを検討してみませんか。

表1 名古屋における日平均気温の歴代順位表(高い順)

歴代順位	1位	2位	3位	4位	5位
年	2019年	2016年	2018年	2004年	1998年
平均気温	17.0℃	17.0℃	16.9℃	16.8℃	16.8℃

※統計開始：1890年～
(名古屋地方気象台の観測データを基に作成)

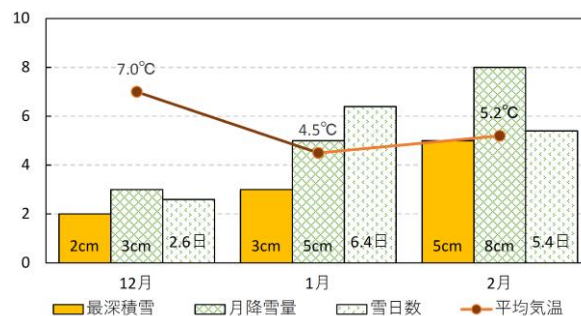


図1 名古屋における12月～2月の降雪量等(平年値)
(名古屋地方気象台の観測データを基に作成)



不耕起V溝直播水稻の出芽

(出典：愛知県農業総合試験場
「不耕起V溝直播栽培の手引き(改訂第4版)」)

環境調査センター 企画情報部
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

あいち低炭素社会づくりフォーラムを開催しました



愛知県では、12月23日にウィルあいち（名古屋市東区）で「あいち低炭素社会づくりフォーラム」を開催し、約200名の方にご参加いただきました。

1 認定証授与

エコカーの導入など、自動車環境の改善に積極的に取り組む「自動車エコ事業所」の方々や、CO₂の排出抑制に意欲的に取り組む旨を「あいち CO₂削減マニフェスト2030」として宣言していただいた事業者の方々に、大村知事から認定証が授与されました。

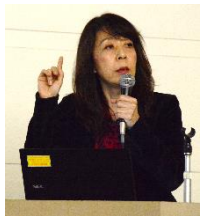
2 基調講演

国立環境研究所地球環境研究センター副研究センター長の江守正多さんえもりせいだから、「気候変動リスクと『卒炭素』への道」と題して、気候変動対策の有無による気温変化シミュレーションや、脱炭素化を達成するためには社会の「大転換」が起きる必要があることなどをご紹介いただきました。



3 事例発表

三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)環境戦略アドバイザー一部 チーフ環境・社会 (ES) ストラテジストの吉高まりさんよしかかから、「気候変動がもたらすビジネスへの影響～ESGの視点から～」と題して、ESG投資の動向や県内企業の取組などを、東邦ガス(株)CSR環境部長の肆矢直司さんよつやただしから、



「東邦ガスの地域社会への貢献～低炭素社会の実現に向けて～」と題して、「みなとアクルス」における先進的な取組などをそれぞれ発表していただきました。



4 トークセッション

気象予報士で名古屋文化短期大学講師の早川敦子さんはやかわあつこと講師3名による「低炭素社会の実現に向けた社会構造の転換」をテーマとしたトークセッションを行いました。主な意見として「(県民の方には)まず、世界で何が起きているか知ってほしい」、「一人ひとりの取組が、社会システムを変えるシグナルとなり得る」といった呼びかけがありました。

今後も県は、県民・事業者の皆さんに低炭素社会の実現に向けた意識の向上、行動の転換をしていただけるよう、「あいち COOL CHOICE※」県民運動などの各種取組を推進してまいります。

※ 省エネ家電への買換え、公共交通機関の選択、クール&ウォームシェアへの参加など、日常生活のあらゆる場面で地球温暖化防止行動を「賢く選択」していただく県民運動。詳細はWebページをご覧ください。
(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/aichicoolchoice.html>)



地球温暖化対策課 調整・企画グループ
電話 052-954-6213 (ダイヤルイン)

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
令和2年2月3日発行(第285号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市北区辻町字流 7-6
電話 052-910-5489(ダイヤルイン)

編集後記

今月号からWebページへの案内がある場合に、各記事にQRコードを掲載していますがお気付きでしょうか。各記事のWebページでは、記事に入りきらなかった詳細な内容をご覧いただけます。また、気になった記事のWebページを保存いただければ、後で見直す際や、ご家族やご友人に広めていただく際にも便利かと思います。是非ご活用ください。
(企画・編集チーム)

※ この環境かわら版は、環境局Webページ「あいちの環境」<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/>でも発信しており、写真等をカラーでご覧いただけます。この記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いします。